

## 第 66 回 日本医史学会神奈川地方会 春季例会 プログラム

日 時：2026年2月21日(土) 14時30分～

会 場：鶴見大学 5号館 2階 5-201教室

参加費：500円(日本医史学会会員、同学会神奈川地方会会員)  
2,000円(非会員)  
日本医師会生涯教育制度単位の取得ができます

開 会：14時25分 石上 友章 (当番会長)

### I 依頼演題

①14:30～15:00 座長 萩庭 一元

『戦争を契機に発展した医学

—ベトナム戦争とARDS、中東戦争と外傷初療早期輸血—』

演者 平 泰彦 聖マリアンナ医大 呼吸器外科

“戦争”と“医学”は一見相反する概念だが、両者は密接に関連する。戦傷という負の影響は医学の進歩を促し、医学・科学の進歩は戦争の様態を変化させてきた。戦争による医学の進歩の代表的な例として、「ベトナム戦争とARDS」、と「中東戦争と外傷初療の早期輸血」を概説する。

②15:00～15:30 座長 萩原 悠太

『催眠療法の歴史 — メスメルからシャルコーへ — 』

演者 桂井 隆明 聖マリアンナ医大 総合診療内科

メスメルを端緒とするメスメリズムは催眠療法の源流となり、シャルコーやフロイト、ジャネなどに影響を与えたことが知られている。本演題ではメスメルからシャルコーに至る催眠療法の歴史に触れつつ、現代医学への影響について若干の文献的考察を交えて検討することを目的としている。

(休憩) 15分

### II 特別講演 15:45～ 座長 石上 友章

『高血圧の発見から、治療まで：その足跡を辿る』

演者 桑島 巖

NPO 法人臨床研究適性評価教育機構 (JCLEAR) 理事長

元東京都健康長寿医療センター副院長

古来、多くの人々が突然意識を失い亡くなった。しかし、その不思議な実態を人類が解明するまでには、何世紀も要した。本講演では血圧の発見、病態の解明、測定法の進歩、そして治療薬の開発までに至る道筋をたどり、先人の偉業を讃えたい。

### III 第 127 回日本医史学会学術大会のお知らせ 16:45～

大川 順子(聖マリアンナ医科大学 医史学研究室)

閉 会：17時 桐生 迪介